

教15 臨床検査技師教育に必要な危機管理の素養とは

○嶋津 翔太¹⁾、三村 邦裕²⁾、谷口 智也¹⁾、生江 麻代¹⁾、香取 尚美¹⁾、岸野 沙耶花¹⁾、山森 賢¹⁾

1) 昭和医療技術専門学校 教務課、2) 千葉科学大学

【背景】医療にとって重要な役割をもつ臨床検査技師が、緊急事態に対応できる力を養うためには、臨床検査技師教育で行われている内容と他の医療職種の教育内容について比較検討を行う必要があると考える。本研究では、危機管理の分野のうち災害医療、救命処置、管理運営の3つに絞り、これからの人材育成のためには、どのような教育が必要かを臨床検査技師国家試験出題基準と他の医療職種の国家試験出題基準を比較し、今後の臨床検査技師教育に必要な危機管理の素養とは何かを検討することを目的に研究を行った。

【対象】各医療職種（臨床検査技師（令和3年度版）、医師（平成30年度版）、歯科医師（令和5年度版）、看護師（令和5年版）、薬剤師（平成28年度版）、救急救命士（令和4年版）、診療放射線技師（平成32年版）、理学療法士・作業療法士（令和6年度版）、臨床工学技士（令和3年度版））における国家試験出題基準を対象とした。

【方法】国家試験出題基準の小項目に記載されている用語に対し、形態素解析を行い、テキストマイニングソフトKHcoder3に読み込ませ、計量テキスト分析を行った。3

つのテーマから検討された項目について、共起ネットワーク図を用いた比較検討と、アンケート調査による分析を行った。

【結果】災害医療については、災害の定義や特徴といった基礎知識から、救護活動時の基本対応としての実践力を表す用語が抽出された。救命処置については、一次救命処置の内容から、救命時における医療機器や医薬品の取り扱いといった内容が抽出された。管理運営については、医師や看護師といった患者と直接触れ合う機会が多い職種では医療情報の収集、伝達といった診察に繋がる内容が抽出された。

【考察】国家試験出題基準を比較検討することにより、各医療職種の教育内容の違いを理解することができ、今後の臨床検査教育に必要な素養が明らかになったと考える。臨床検査技師が今後も医療の現場で活躍し、チーム医療の一員として患者に対して適切な医療を提供していくためにも、今回の研究で明らかになった災害医療、救命処置、管理運営の知識の修得を臨床検査技師教育の中にも取り入れていく必要があると思われた。